

みんなで考え、つくる、 あたらしいまち。

西成区社会福祉協議会 —— 生活支援体制整備事業

地域とともに
あゆむ居場所

の巻

2022.2発行

平成30年に、伊地知さんより
「所有している物件を
地域に役立つことに使いたい
と考えてるんやけど…」

との相談を玉出包括が受け、
平成31年1月に、
伊地知夫妻とボランティア、
玉出包括、南津守プランチ、
生活支援コーディネーターで、
どんな居場所にしたいか、
話し合いました。

その結果

平成31年2月に「あゆみ工房」ができました！

はじめは月2回の開催で、
それぞれ『うた教室』と『はがき絵教室』を行い、
将棋とポッチャも楽しめる場としてスタート！

その後

ボランティアや参加される皆さんの意見も取り入れ、
現在は定例のポッチャ・囲碁・将棋とともに、
日によって編み物や小物づくりを楽しむ手作りの会や
絵手紙サークル、歌を楽しむ『歌みずきの会』、
紙芝居や手品などが披露されるイベントなど、
様々な活動が広がっています。

コロナ禍でも…

感染予防をしながら活動を継続！
「一度休んでしまったら
再開するのは難しくなる」
という、ご主人の強い意志で、
コロナ禍でも少人数で
ずっと続けられています！

“一歩一歩あゆんでいく場所にしたい”という思いを込めて命名！



一歩一歩地域とともに
「あゆみ工房」

【開催日】毎週水曜日・第2金曜日 午後2時～4時 【開催場所】あゆみ工房(南津守3-5-14)
☎06-6656-7001(南津守地域総合相談窓口)・☎06-6651-6888(玉出地域包括支援センター)



地域の方が地域を想い 生まれた居場所!

主催者・参加者の思い

地

地域の皆さんの居場所になってほしいという願いで始めた『あゆみ工房』はもうすぐ三年になります。最初は何をしたら良いのかわからず、手作り・歌・ポッチャから始めました。その後、紙芝居・手品・落語・太極拳が加わり、参加者の方も少しずつ増え、コミュニケーションが出来てきたと思っていれば、コロナの感染が始まりました。はじめの緊急事態宣言の時は休みましたが、解除後も不安でしばらくは休んだ方が良かったのではないかと悩みました。しかし、休んでしまったらもう始める時は来ないかと考え再開を決めました。「あゆみ工房が休むと言われたらどうしようと思っていた」との言葉に励まされ、現在も休まず続けています。コロナの一番の恐さは人と人を孤立させることで、人とのコミュニケーションがどんなに大切かを知りました。笑い合えることは人を元気にしてくれます。一日も早くコロナが終息することを願います。

伊地知 秀久さん(右)・春代さん(左)



皆

皆さん、ポッチャという競技をご存知ですか? 昨年の東京パラリンピックの正式種目で、日本人選手が優勝しています。障がいのある方や高齢者の方にお薦めの身体に優しい運動です。私は毎週水曜日、あゆみ工房でのポッチャを楽しみに参加させて頂いています。

参加者 京極 博次さん



地域に役立ってほしい場所を居場所につなぐ

こ

の場所は、伊地知さんご夫妻が「地域の皆さんの居場所になってほしい」という強い願いで、ご自身の所有している建物を開放して始められた居場所です。毎週休まず開催され、伊地知さんご夫妻をはじめ皆さんとっても気さくな方達ばかりです。女性も男性も和気あいあいと活動されています。ご自分の特技や趣味を活かせる場所でもあり、このような地域に根付いた居場所がもっともっと増えるといいなと願っています。



第2層生活支援コーディネーター 早川 清美

コロナ禍でも活動を続けているという情報を地域につなぐ

生活支援コーディネーターは地域の思いの“つなぎ役”

居場所に参加してほしい人と参加したい人をつなぐ

コロナ禍でも孤立を防ぐ支え合いの取組を必要人につなぐ

